



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	農業の経済的調整の基礎
Author(s)	Buck, J.L.
Citation	季刊農業経営研究, 3, 4-5
Issue Date	1958-02-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36259
Type	departmental bulletin paper
File Information	3_4-5.pdf



農業の経済的調整の基礎

J . L . Buck

われわれが家を建てたり、道路を建設する場合にはまず立派な基礎を作らなければならない。併し、現実には家も道路も極めて不安定な基礎の上に立っている事実をしばしば見受ける。農業に於ても良い基礎の上に立っていない調整のやり方が見受けられてきた。農業調整の健全な基礎としての基本的知識について以下ある程度詳細に論じてみたい。

世界を廻つていつも感ずることは、人々が改革や調整を行うに当つて、とても急ぎすぎることだ。私達が秀れた調整計画を行うに当つて基礎知識を集めるため若干の時が必要であると提言すると、そんな暇はないとか、金がかかりすぎるとかというのが解答である。その結果仕事にとりかかつて、まるで砂の上に立つて調整計画をたてていくようなものである。私は立派な基礎として必要な基本的知識を以下五項目にわけて論じることとする。

第一のものは基本的或は自然的要素で、気候、土地、水などが含まれる。気候が生産に及ぼす制約については、われわれは誰でも気付いている。この気候に関する資料を非常に精密に検討することがどの調整計画にとつても必要である。同様に土地に関しても地形とか土質について、又水に関して詳細な知識を得なければならない。

第二の要素は人間である。前述した自然的要素を利用し開発するものは農民であり、したがつて本人、その妻、その子供の教育にかかつている。亦教育と並んで農民の経験も大切である。開発及び改革に関しては人間の社会学的様相も大切な要因となろう。世界或は生産に関連する人的要素において、一番重要な差異の一つは耕地一平方哩当りの人口密度である。

第三は社会的、経済的団体の形である。農業調整の仕事は、学校、教会、寺院、市場、交通

機関、通信機関といった団体に負うところ多大なものがある。しかしこれらの数が充分多く、立派に組織化されておれば、調整の問題は之らが存在していない場合に比べて、ずっと容易であらう。

第四は土地利用の型である。土地利用の型は先に述べた自然、人間、社会経済的団体の三つの要素と密接につながつて決定される。土地利用の型に於て必要とされる知識は、現在のもののみならず、将来どう利用されるかという可能性に関する知識でもある。土地利用、農場の大きさ、作物及び家畜の種類、これら作物及び家畜の有機的構成、生産的農業経営等の知識も求められるべきことのうちにふくまれている。農業試験場に行けば改良を行うに役立つ知識が求められ、又、農民自身は長年の経験を通じて十分に多くの知識をもっている。これら農民の経験を問いただす労さえいとはなければ、それは他の農民に役立てられるであろう。このごとくして各地域に於ける農業経営を研究すれば、成功した例、失敗した例を明かにすることが出来るであろう。若し、これらの記録を集め、分析すれば、調整に役立つ有益な知識が大量に得られるに違いない。

第五番目のものは土地利用の成功ということである。これは以上述べた四つの基礎条件の総合に依て形成される。土地利用の成功の度合をはかる尺度にもいろいろあるが、一つは取得ということ、もう一つは一人当りの生産高、さらには生活水準というものも成功か否かを計るものさしとなる。農民が何を、又どれ程栄養分のあるものを食べるか、どんな家に住み、どんな着物を着るか、子供に受けさせる教育の程度、医者や歯医者の診察を十分に受けているか、ラジオ、雑誌、本、テレビ、レクリエーションはどうかという問題も大切である。土地、作物、

家畜といったことだけが成功の度合いを示すものであると考えるのは誤りで、生活水準、資源、それを用いる方法についての立入った調整が必要である。

事情の異った各地域にたいする知識を上述の五つの基本的要素にてらして集めるとき、今それぞれの地域に応じた多くの有用な知識を提供することが出来るのである。そしてこの知識は農業の経済的調整を行う各団体にとつても、又学校に於ける教育のためにも役立つものである。

以上の結論として、こういつた型の知識が如何に役立ちうるものかということを示すために一つの実例を紹介しよう。中国では北西部と中央東部との間に非常に重要な差が認められる。1920年代（大正9年乃至昭和5年）の初期私が南京大学で農業経済学の教授をしていた時、学生の話によると、逄逸仙は「若者よ、北西部へ行け」と盛んに勧めていたとのことであつた。それでは、北西部は中央東部と比較してどのような状態であつたかということ、耕地面積一平方哩当り農民の人口密度は北西部では約700、中央東部では1,600であつた。計算の結果分つたことは、一人当りの生産高は中央東部の一番人口密度の高いところほど高く、人口密度が約半分の北西部では一人当り生産高も人口密度が低

いにも抱らず、中央東部の半分であつた。しかも生活水準も非常に違い、中央東部の方が北西部よりも良い生活を送っていた。北西部では着物さえろくにないため冬の間は家から外に出れるのはたつた一人だけで、ほかの家族は家の中にちじこまつているといつたひどい状態であつた。北西部で生活水準が低い理由は主として天然資源の欠乏に由来している。耕作期間は短く、降雨量も少く、降るには降つても短い時間に大量に降るといつた配分の悪さが目立ち、地勢も良くない。一方中央東部では、耕作期間が長く、二毛作も出来るし水の供給も安定していて凶作は殆んどない。それなのに逄逸仙は若者が北西部に行くように勧めた。丁度われわれが農業の経済的調整についての基礎知識に関する研究を発表したとき、上海の新聞に面白い漫画がのつた。この漫画には二つのグループが描かれていて、一つのグループの人達は良い着物を着、ステッキをもつて「北へ行け」と叫び、他のグループの人達はボロをまとつて、「南東へ進め」と主張している。実際のところ、私が中国を去るまでは人口は北西から南東へ流れていた。農地を買うなら人口密度が一番高いところを選んでそこに落着こうというのは此のような情勢を知っている人々にして出来ることである。

（前アメリカ文化経済委員会部長）

季刊 農業経営研究

第1集目次

農業経営の考え方	矢島武
酪農経営の基礎と課題	桃野作次郎
水稲品種作付比率の決定法	京野禎一
北海道農業に於ける資本形成の特徴	飯島源次郎
北海道農業に於ける農家の消費構造	清水川敏雄
北海道農家の消費構造分析のために	今泉英男
越後地主と北越殖民社Ⅰ	山本敏
農産物の商品化について	川村琢
ジャージー牛の故郷	山口哲夫
アメリカ農業経営学	和泉庫四郎
・特別寄稿・	
矢島武 瀋欧通信	ドイツ農業の方向

第2集目次

アメリカ農業経済学会	矢島武
甜菜栽培と農業経営	桃野作次郎
乳牛経験の五ヶ年	厚海忠夫・近藤邦広
根室原野の酪農経営	杉上忠幸
戦後北海道酪農経営の動向	塩沢照俣
農業機械化に関する一考察	七戸長生
越後地主と北越殖民社Ⅱ	山本敏
・研究手帳・	
農業機械化の速度	渡辺侃
北海道馬鈴薯の始まり	高倉新一郎
農業技術の経営的普及	堀口逸雄
甜菜奨励今昔	吉田博
小農機械について	渡辺以智四郎